

主な取り組み事例

- 健康長寿を延ばし、生き生きした老後を楽しもう(山内町自治会)
- ふれあい交流会in渋谷(渋谷自治会)／●移住者等交流会―集落の今と、そして未来を考える―(瀬利自治会)
- ～街道イラストマップ「昭和編・未来編」をみんなで描く～郡家未来創造まつり(郡家自治会)
- 東岡屋地区文化祭～「であい・ふれあい・そして笑顔」～(東岡屋自治会)
- 四季折々の美しい自然を生かした里づくり事業(後川新田筆坊自治会)
- 桜並木で住民交流(倉谷自治会)／●上んちょ交流会～地蔵盆を伝えよう～(福住上自治会)
- 移住者等交流会―西野々盆踊り大会―(西野々自治会)
- 高齢化の自治―集落の今 今後の自治会の在り方は(塩岡自治会)
- ふるさと小原の伝統の伝承(移住者から見た小原のすばらしさの再発見)(小原自治会)
- 全員集合!みんなで盛り上げよう!人と人、昔と今のこれからを繋げる(口阪本自治会)
- 「秋まつり」関係人口と考える集落のこれから(川阪自治会)
- 住民交流会―ふるさと住民交流会(栗栖野自治会)
- 「こんにちは!」から始まる多文化共生を目指して(今田町みどり台自治会)

未来につなぐ私たちの農村

ワクワク農村

地域の魅力を見つめ直し、未来へつなぐ「ワクワク農村」の取り組み。3年間にわたり実施した「ワクワク農村創生補助金事業」を通して、市内211自治会でさまざまな取り組みが行われました。

今回は、未来につながる地域づくりの事例をご紹介します。

問い合わせ 地域振興課 ☎552-5112／城東支所 ☎556-3111
多紀支所 ☎557-1161／西紀支所 ☎593-1111
丹南支所 ☎594-1131／今田支所 ☎597-3111



伝統を未来へ 人と人のつながりを力に 【川原自治会】



「目指せ!元気のぞる川原」をスローガンに掲げ、地域の未来を見据えた活動に取り組まれている川原自治会。川原にルーツのある人や地域外で川原に興味を持つ人に、祭りや地域行事へ参加してもらい、人々とのつながりを広げようと取り組まれています。

その思いから、2022年には10年以上途絶えていた子どもの伝統行事「亥の子」を復活。今では、参加者も年々増え、地域を離れて暮らす子どもたちも参加するようになりました。また、長年途絶えていた「キツネがえり」も復活し、「子どもの声が聞こえるだけで地域が元気になります」と森田恭弘自治会長。さらに、2021年からは地域の歴史や自然、行事などを紹介する「かわら版」を毎月発行。全戸配布に加え、地域外で暮らす方にも情報を届け、地域とのつながりを育んでいます。「来てくれる人も、住んでいる人も、みんなが元気になれる地域にしたい」と笑顔で話されました。



森田恭弘自治会長

「野々垣みらい計画」始動 笑顔あふれる野々垣へ【野々垣自治会】



野々垣自治会では、2025年9月に将来にわたって誰もが笑顔で暮らせる地域をめざし、「野々垣みらい大作戦委員会」を発足しました。交流、空き家、農業、人口減少、世代交代などの課題について話し合いを重ね、2月1日の「野々垣ふれあいフェスタ」において、今後10年間の方向性をまとめた「野々垣みらい計画」を策定しました。

計画では、「地元企業との交流」「公民館の活用」「空き家対策」「景観維持や花いっぱい運動」などを推進します。フェスタをきっかけに始まった花いっぱい運動では、地域内7カ所にプランターを設置し、花のあるまちづくりに取り組んでいます。また、地元企業や都市部との農業体験を通じて、関係人口の拡大にも取り組まれています。山口喜昭自治会長は、「まずは野々垣に関わる人を増やしていきたい。景観を守り、それを交流につなげることで、交流人口や関係人口の拡大につなげたい」と熱い思いを話されました。



山口喜昭自治会長

水仙と納涼大会で深まる地域の絆 【北沢田自治会】



水仙まつり

住民同士の交流を大切にしている北沢田自治会。地域のつながりを深めようと、2013年から、県道や農道沿いに水仙の植え付けを行い、現在では約3kmにわたる「水仙ロード」が広がっています。今年で9回目を迎えた「水仙まつり」では、日本舞踊やオカリナ演奏、ゲームなどが行われ、参加者が楽しいひとときを過ごしました。

また、25年前から続く「納涼大会」では、地域を離れて暮らす人々も帰ってくるなど、世代を超えた交流の場となっています。「普段は話す機会がない人同士でも、『久しぶりやな』と声を掛け合えることが大切な親ばくになっています」と稲川茂樹自治会長。「今後は、新しく地域に加わった住民との交流にも力を入れ、誰もが住み続けたいと思える北沢田をめざしていきたい」と話されました。



稲川茂樹自治会長(左)
堀家忠義副自治会長

ワクワクする農村をめざして
丹波篠山市では、丹波篠山に暮らす一人ひとりが、10年後、20年後も住み続けたいと思える「ワクワク農村」の実現をめざしています。市では、集落を未来へつなぐため、丹波篠山で暮らす幸せを見つけて、集落で新たな取り組みを始めることを「ワクワク」と表現しています。その取り組みの一つとして、令和5年度から3年間、「ワクワク農村創生補助金事業(ワクワク事業)」を

実施しました。市内211自治会が事業を活用し、地域の未来を考え、それぞれの地域に合った取り組みを進めてきました。また、ワクワク事業を活用した取り組みだけでなく、各地域では独自のアイデアや工夫を生かし、地域を元気にするさまざまな活動も行われています。こうした取り組みは、それぞれの地域の魅力を生かしながら、未来へつなげる地域づくりへと広がっています。次に、ワクワク事業をはじめ、地域を元気にする代表的な取り組みを紹介いたします。



Q.ワクワク事業を実施して良かったことは？[197自治会回答 複数回答可]



ワクワクの種を、次の世代へ

令和5年度から3年間実施した「ワクワク事業」では、市内211自治会が地域の未来について話し合い、それぞれの地域に合った取り組みが進められてきました。今回は、未来につながる地域づくりの事例を紹介しましたが、地域の皆さんが自分たちの住む集落の将来を話し合い、地域の伝統をつなぎ、地域資源や魅力を生かし、新たな取り組みをはじめると、素晴らしい取り組みが行われました。このようにワクワク事業が多くの自治会で取り組まれたことで、集落を未来へつなぐ取り組みが市内各地で始まりました。今回の取り組みをきっかけに生まれた地域のつながりや思いを大切に、それぞれの地域で「ワクワク」できる活動がさらに広がり、継続していくことが期待されます。

現在、市では、地域での話し合いや新たな取り組みの参考として活用いただきたく、「ワクワク農村未来プラン事例集」(仮称)を作成しています。こうした事例も参考にしながら、ワクワク事業で生まれた種を育み、次の世代へつなぐため、10年後20年後も住み続けたいと思える「ワクワク農村」の実現をめざし、自治会の維持や活性化につなげていきましょう。



地域振興課 尾形繁課長

みんなで描く 今田のまちづくり

今田まちづくり協議会

「まちづくり計画見直しワーキンググループ」



今田地区では、「まちづくり計画」の見直しが進められています。その中心となるのが、2月に発足した「まちづくり計画見直しワーキンググループ」です。子育て世代を中心に、高校生や大学生など22人が参加し、10年後の今田町の姿を話し合っています。代表の宮前真子さんは、「今田の魅力は人と人とのつながり。一度まちを離れても帰ってきたいと思える地域にしたい」と話します。また、活動を広く知ってもらうため、まち協のマスコットキャラクター「ときめきくん」が地域の魅力を紹介するInstagramで情報発信にも取り組んでいます。高校生メンバーの鈴木優大さんは、「若い世代の視点で今田の魅力を発信し、地域への関心を広げていきたい」と意気込みます。宮前さんは、「今後は、サマーフェスティバルなどで住民の意見を集めながら計画をまとめ、地域の魅力を未来へつなげたい」と、熱い思いを話されました。



宮前真子代表(左)
鈴木優大さん(中央)
ときめきくん

今田まちづくり
協議会
Instagram



ワクワク事業終了後に実施したアンケートでは、「住民間の親睦が深まった」「世代間の交流ができた」「普段、集会や自治会活動に参加しない人の参加が見られた」など、多くの前向きな声が寄せられました。地域の将来について話し合うことが、人と人とのつながりを深め、新たな活動を始めるきっかけとなったことがうかがえます。

現在、丹波篠山市では、ワクワク事業を実施された自治会の取り組みを整理し、今後の自治会やまちづくり協議会等における地域活性化につながる取り組みに活用できるようにまとめた事例集を作成中です。事例集は、今秋には各自治会へ配布する予定です。

未来へつなぐ
ワクワクの取り組み

地域を元気にする味間奥の「一番OKU」

【味間奥青壮年部】



味間奥自治会では、地域の交流を深めるイベント「OKU-1グランプリ」を開催しています。西宮神社の「福男選び」にちなみ、一番福ならぬ「一番OKU」を決める催しで、今年で4回目を迎えました。始まりは2023年1月。コロナ禍で納涼祭や地区運動会など、地域で集まる機会が減ったことをきっかけに、味間奥青壮年部が「子どもから高齢者まで、みんなを巻き込んで楽しめる行事を」と企画しました。

競技は、大国寺へ続く直線道路約180mを駆け上がり、いち早くゴールした人を「一番OKU」に認定。小学生から一般、シルバー、アスリート部門まで、幅広い世代が参加し、毎年40～50人が出走する地域の恒例行事となっています。帰省に合わせて参加する人も増え、世代を超えて地域がつながる機会にもなっています。企画に携わる同副部長の小倉雄司さんと高仙坊博之さんは、「これからも、みんなが笑顔になれるイベントを続けていきたい」と、にこやかに話されました。



小倉雄司副部長(左)
高仙坊博之副部長

世代を超えてつながるホタルの里

【小坂自治会】



小坂自治会では、豊かな自然環境を守り、四季折々の美しい景観を未来へつなげようと、毎年6月に「ホタル観察会」を開催しています。この観察会は、もとも農繁期が一段落する時期に地域の人が集まり、ホタルを眺めながら交流する場として始まりました。藤山克則自治会長は、「集落のみんなが集まって、わいわいするという機会がなかったので、コミュニケーションを図るという目的で始めました」と話されます。

2017年からは、市役所職員によるホタルの生態学習を取り入れ、自然環境の大切さを学んだ後に観察会が行われています。参加者は以前の約40人から現在では100人を超え、地域外で暮らす子どもや孫たちも帰省して参加するようになりました。

「子どもたちの楽しそうな顔を見ると、地域のみんなが元気をもらえます。今後も、ホタルが飛び交うような豊かな自然を守っていききたい」と力強く話されました。



藤山克則自治会長

(株) 岩崎電機製作所は、ワイヤーハーネスや産業用精密電子機器、制御盤の製造をはじめ、検査自動化システムの開発などを手掛けています。

同社は、1970(昭和45)年に岩崎地区で操業を開始し、1977(昭和52)年には河原町へ工場を移転しました。1980年代には(株)ダイヘンの事業拡大に伴い、産業用ロボット向けワイヤーハーネスや半導体製造装置部品の製造を開始。これを機に事業は大きく成長しました。2000(平成12)年には本社を八上工場へ移転。さらに、2006(平成18)年にはベトナム工場を新設して海外展開を本格化させるなど、国内外で安定した生産体制を構築されています。

新本社で生産体制を強化

今年5月に完成した新本社は、本社機能を備えた2階建てで、敷地面積は2万1,278平方メートル、延床面積は1万2,592平方メートル。これまで分散していた工場や倉庫を集約し、生産体制を強化。半導体製造装置や産業用ロボット、医療機器、電力設備機器など成長分野を支える企業として、新たな一歩を踏み出しました。

同社には現在、281人が勤務しており、新本社では約180人が働いています。平均年齢は40代と若い世代が活躍しています。

また、社員食堂も設けられ、朝は午前7時からオープン。昼食には、定食・丼物・麺類・サラダバーなど多彩なメニューが用意され、社員の健康と働きやすい環境づくりを支えています。

さらに、年間休日も現在の112日から2年かけて120日へ段階的に増やす予定で、福利厚生も充実にも積極的に取り組まれています。

TOP INTERVIEW

新本社の建設にあたっては、岩崎・宇土地区の皆さまをはじめ、多くの方々からご理解とご協力をいただき、無事に完成・稼働を迎えることができました。

新工場には、生産力の向上だけでなく、人材確保や働きやすい職場環境づくりの役割も期待しています。社員食堂の整備や休日の増加など、社員が健康で安心して働ける環境づくりにも力を入れ、地域の方々にも「ここで働きたい」と思ってもらえる魅力ある職場づくりを進めていきます。

当社の強みは、半導体関連や産業用ロボット、医療機器、電力インフラなど、今後も成長が期待される幅広い分野で、事業を展開していることです。これからも地域とともに成長し、貢献できる企業をめざしていきたいと考えています。

代表取締役社長 藤平博之
代表取締役副社長 藤平尚子



(株)岩崎電機製作所が 新本社を完成



丹波篠山市では、「働く場の創出」と「市内企業の振興」を目的に企業誘致や市内企業への支援を進め、地域の活性化と魅力あるまちづくりに取り組んでいます。

このたび、株式会社岩崎電機製作所の新本社が完成し、5月から本格稼働を開始しました。

問い合わせ 創造都市課 ☎552-5796

インタビュー：従業員に聞きました



製造課
中澤景子さん
(入社10年目)

岩崎電機製作所では、社員食堂や、健康診断・インフルエンザ予防接種費用等の全額負担など、福利厚生が充実し、安心して働ける環境が整っています。

世界中で使われる製品づくりに携われることに誇りとやりがいを感じながら、今後も生産性の向上と働きやすい職場づくりに取り組んでいきます。



検査課
村上智規さん
(入社10年目)

新工場は、作業導線が工夫され、必要な場所への移動や資材の運搬がしやすく、日々の作業負担の軽減につながっています。

また、男性も育児や介護休業を取得しやすく、安心して長く働ける環境です。これからも、知識や技術を磨きながら、生産性の向上と働きやすい職場づくりに貢献していきたいです。



製造課
井端洸紀さん
(入社5年目)

新工場は天井が高く開放感があり、とても働きやすい環境です。社員食堂の日替わりメニューが充実していて、毎日の楽しみになっています。

現在は、資格取得に挑戦中で、会社の手厚いサポートを受けながら勉強しています。これからも知識と技術を磨き、成長していきたいです。

会社概要

- 所在地 岩崎406番地1
- 設立年月 1970年5月
- 事業内容 電気機器の製造
- 代表者 代表取締役社長 藤平博之
- 従業員数 281人(7月31日現在)
- 国内拠点 5カ所(本社、池上工場、河原町工場、大阪事務所、富山営業所)
- 海外拠点 1カ所(ベトナム工場)